

ぼうりょう 坊領遺跡現地公開

交野市教育委員会・公益財団法人 大阪府文化財センター

平成 29 年 3 月 4 日（土）

これまでの調査成果

坊領遺跡は大阪府営交野藤が尾住宅付近から北に伸びる台地の上に広がる遺跡です。

本遺跡は今から 61 年前の昭和 31（1956）年に地元の中学生によって土器や石器が採集されたことにより広く知られるようになりました。

翌昭和 32（1957）年に交野考古学会の皆さんによって、現在調査を行っている場所の近辺で遺跡確認のための調査（試掘）が実施されました。その時の成果は平成 4（1992）年に発刊された『交野市史 考古編』によりますと、土器類（弥生土器・土師器・須恵器・陶器）や、石器（サヌカイト片）が出土し、「コ」の字状に屈曲する溝・炭化物が集中する部分がみつかったと記されています。そして、特に弥生土器や石器がたくさん出土したこともあり、この時代の遺跡として認識されるようになりました。

今回の調査成果

今回の調査地は遺跡が広がる台地の先端部分にあたります。調査では南東側（JR 学研都市線側）から北西側に向かってゆるやかにくだる地形（南側の標高 30.5m～北側の標高 29.5m）が姿をみせ、調査地の北西端には南北方向に流れる流路の痕跡がみつかったことから、調査地は流路を望む小高い場所であることがわかりました。

標高が高い部分では古墳時代中頃（今から約 1600 年前頃：5 世紀代）の^{たてあな}竪穴建物 2 棟や^{ほったてばしら}掘立柱建物 2 棟（現在はまだ時期が不明）を中心にして多くの柱穴等の遺構がみつかっています。竪穴建物の一つには煮炊きを行うためのカマドが作られています。標高が低くなる部分では流路に向かって流れる古墳時代中頃の溝や弥生時代後期（今から約 1900 年前頃）の井戸、多くの柱穴等がみつかりました。また流路のすぐそばで竪穴建物が 1 棟みつかりましたが、その中に遺物がほとんどないことから、いつの建物かは判明していません。さらに、「口」の字状に溝が巡る方形周溝墓が 1 基確認出来ました。残念ながら墳丘は削られており、主体部（遺体を葬った場所）の痕跡は残っていませんでしたが、周溝から弥生時代中期（今から約 2100 年前頃）の土器がまとまってみつかっています。

現在までの調査で、調査地は古墳時代中頃の集落と弥生時代中頃のお墓が形成されていた場所であることが明らかとなりました。

なお、遺物包含層からは古代の土器、古墳時代の須恵器や土師器、弥生土器や石器がみつかっています。弥生土器の数はそれほど多くありませんが、不思議なことにサヌカイト製の石器や石器を作るときに出る石の屑がたくさんみつかっています。この状況を考えると調査地の近辺に弥生時代の集落も営まれていたことは間違いないものと言えます。古墳時代以降、長年にわたる土地の利用によって弥生時代のムラの姿がわかりにくくなってしまったものと思われます。

これからの調査やその後の整理作業で、より具体的に坊領遺跡の様子を明らかにしていきたいと思います。

写真3 弥生時代後期の井戸

右側の井戸は直径約 1 mでたくさんの土器が廃棄されていました。左側の井戸は長軸約 3 m、短軸約 2mで楕円形です。

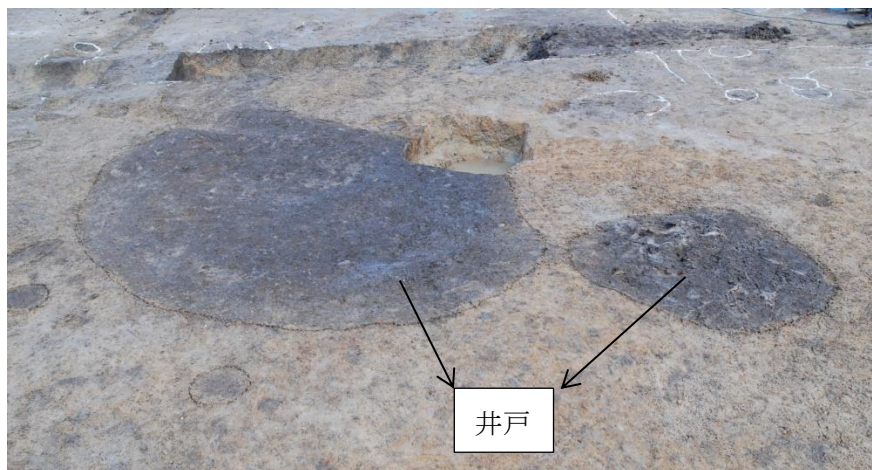


写真4 右側の井戸で
みつかった弥生時代後
期の土器
井戸を埋める際に何か
オマツリをしたのでし
ょうか？



写真5 竪穴建物

建物の壁沿いに溝を巡らせています。建物の屋根を支える柱は4本でした。建物の大きさは 3.4m × 3.5mです。

